

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
日本児童教育専門学校		昭和59年4月2日		小林光俊		〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3207-5311																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人敬心学園		昭和61年4月11日		小林光俊		〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3207-5311																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
教育・社会福祉	児童教育専門課程	総合子ども学科		-	平成20.2.29 告示第15号																						
学科の目的 総合子ども学科は子どもに関する専門知識と技術を身に付け、卒業と同時に保育士資格・短大通信教育併修による幼稚園教諭二種免許を取得することを目的とする。3400時間に及ぶ授業を通じて子どもの成長に永く貢献できる保育士・教育者を育てる。																											
認定年月日 平成26年3月31日																											
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																					
4年	昼間	3990時間	990時間	2460時間	540時間	0時間	0時間																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
160人		109人	1人	6人	40人	46人																					
学期制度	■前期:4月1日～8月31日まで ■後期:9月1日～3月31日まで			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S,A,B,C,D,Eで表し、C以上が合格点となり単位を付与される。																					
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月31日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月8日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件		進級条件:なし 卒業条件:70単位以上取得し、卒業要件科目の単位認定により卒業ができる																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 個別面談・保護者連絡			課外活動		■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 ボランティア・学内セミナー ■サークル活動: 有																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 保育所・児童福祉施設等。就職率 100% ■就職指導内容 授業「キャリアデザイン」の中で就職活動の基礎を学び、卒業年次生は個別で担当者がキャリアサポートを行う。 ■卒業者数 24 人 ■就職希望者数 22 人 ■就職者数 22 人 ■就職率 : 22 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 91.6 % ■その他 ・帰国(留学生) 1名 ・結婚 1名 (平成 28 年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士資格</td> <td>②</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td></td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するものを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士資格	②	22人	22人	幼稚園教諭二種免許		4人	4人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
保育士資格	②	22人	22人																								
幼稚園教諭二種免許		4人	4人																								
中途退学の現状	■中途退学者 15 名 平成28年4月1日時点において、在学者114名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者99名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更、経済事情、家庭事情 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例) カウンセリング・再入学・転科の実施等 週に一度の会議で学生状況を教員間で共有。クラス担任を中心とした学生との個別面談を通して、学修継続へのフォローをはかる。			■中退率 13.2 %																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生AO入試を実施。選考により1年次の授業料を減免 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 平成26年度私立専門学校第三者評価 http://jje.ac.jp/pdf/disclosure_h26_dai3.pdf																										
当該学科のホームページURL	URL: http://www.jje.ac.jp																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための自集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合子ども学科は実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携、実習・就職フェアを通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む)に活かすことを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の設置趣旨・目的は以下のとおりである。
専修学校の職業実践専門課程に関する認定の趣旨に鑑み、保育士・幼稚園教諭等の職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、保育業界における知識、技術、技能について知見を有する専門職及び学識経験者並びに有識者の意見を、本校の教育課程の編成において反映させるべく、本校に教育課程編成委員会を設置する。また、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。以下同じ。)にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める。

委員会報告は、関係学科内及び学科長会議にて検討され、変更内容・変更方法などの細則案を定め、毎週金曜日に開催される全専任教員が出席する専任講師会議に諮られ、校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 光俊	日本児童教育専門学校 校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
片岡 輝	東京家政大学 名誉教授 社会福祉法人 緑伸会 理事長 財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所 理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	②
新木 真理子	社会福祉法人 七施 育正保育園 園長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
須江 宏行	公益財団法人 生長の家社会事業団 生長の家神の国寮 自立支援コーディネーター	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
三沢 敦子	株式会社キッズベースキャンプ 資格事業チーム 統括シニアマネージャー	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
柏倉 一雅	株式会社キッズベースキャンプ 新宿区中井児童館館長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
岡田ひとみ	社会福祉法人どろんこ会 社会福祉法人どろんこ会理事兼園長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
阿久津 撰	日本児童教育専門学校 副校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
中西 和子	日本児童教育専門学校 教務部長・保育福祉科学科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
菊池 一英	日本児童教育専門学校 就職相談室 室長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
高井 均	日本児童教育専門学校 事務次長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時) 年2回 2月、3月

第1回 平成29年2月24日 18:00～19:00

第2回 平成29年3月24日 18:00～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

①委員より、単なる一保育士でなく、企業を担うマネジメント志向のある学生育成の期待があり、平成28年度よりオープン科目(希望者が参加)として、「保育マネジメント論」を開催。毎回違う連携企業に依頼し、それぞれの経営、マネジメントについての講義を行っている。学生からは、マネジメント論だけでなく、様々な企業研究も同時に行え、就職活動に非常に役立つとの声もある。

②中退する学生の要因として、実習がハードルになることが多い。通常の「保育実習指導」だけでなく、事前に保育現場と関わる取り組みの必要性をご指摘いただいた。こちらについては平成28年度より「文部科学省委託事業 専修学校版デュアル教育推進事業」にエントリーし採択。「現場実践基礎力を有した保育士養成のための「保育現場での活動」のガイドライン作成」事業の代表機関として活動中。平成29年度より「保育実習指導」の中で、1年生に連携企業の現場体験を実施しており、学生への教育効果が期待できる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学生が主体的に実習に取り組む姿勢を重視し、実習施設を学生自身が開拓し、実習相談室の担当教職員と密な連携を取って選定する。選定の基準は、過去の実習受け入れ実績をもとにして、本校の求める人材育成とのマッチング、及びカリキュラムに沿った指導・援助が行えるかどうかを判断するとともに、学生自身の個性、将来目標、交通条件等に配慮し選定する。また、本校と密に連絡を取り、学生指導ができるシステムが備わっているかも重要な選定基準である。選定後、施設と契約締結し、実習を実施する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

児童福祉法に基づき設置された認可施設にて実習を行う。
 実習中は「実習要綱」の内容に基づき、実習指導者により指導・援助を受ける。
 実習中、本校担当講師は定期的に巡回・連絡し、監督・助言を行う。
 学生は万事研究的態度を失わず、積極的に指導者の指導を仰ぎ、実習日誌を実習担当者に毎日提出し、指導助言及び検印を受ける。
 実習修了時には、実習指導者より成績評価を受け、本校担当講師が単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ	実習は、本校において履修した教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士及び、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	三鷹市立こじか保育園 太陽の子 三田保育園 まなびの森保育園菟窪 エリザベスサンダースホーム シャローム南風 リアン文京 他 計106施設
保育実習Ⅱ/Ⅲ	実習は、本校において履修した教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士及び、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	三鷹市立こじか保育園 太陽の子 三田保育園 まなびの森保育園菟窪 エリザベスサンダースホーム シャローム南風 リアン文京 他 計106施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修は、教職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識・技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力・資質等を向上させ、本校の理念・目的・目標を達成することを目的とし、「日本児童教育専門学校 教職員研修基準」に規定されている。

組織の理念実現のため個人の能力を高めることは必須であり、そのためにも組織的に研修を計画し、研修計画の必要性を説明し、納得を得ることに努める。計画の策定にあたっては必要分野・領域を的確に把握し、適切なテーマ・研修計画を設定する。そのために、教職員の専攻分野・担当業務及び本校関連分野に係る団体・企業等の意見を聞き、教職員の経験・能力等を勘案し研修計画を作成し、実施する。

業界分野の変化は法制度の変更によることが多く、制度変更の際し、行政機関等より意見聴取される機会が比較的多いものも業界団体・研究機関である。その業界団体等により実施される研修会・学術大会へ参加することは必須であり、継続的に参加を促すこと

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年7月10日	現代保育研究所研修会	全国保育士養成協議会	菊池講師
平成28年8月28日	新幼児教育セミナー 新制度がめざす保育の実践～より丁寧な保育の大切さ	ひかりのくに	鈴木講師
平成29年5月20日～21日	日本保育学会 第70回 研究大会	日本保育学会	安部講師

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年3月25日	中退率削減に向けて—今どきの学生の傾向について—	株式会社キズキ	専任講師及び非常勤講師
平成29年2月13日	アクティブラーニング研修	敬心学園	専任講師6名
平成29年6月25日	平成29年度第1回研修会 今後の保育士養成のあり方～実習指導の強化と保育所保育指針の改定～	全国保育士養成協議会	水引講師

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成29年9月1日～3日	全国保育士養成セミナー こども・生きる・あそぶ——子どもの最善の利益を保障する保育者	全国保育士養成協議会	専任講師2名
平成29年12月17日	RIFCR(リフカー)研修	認定特定非営利活動法人 チャイルドファーストジャパン(CFJ)	熊崎講師
平成30年2月4日	こどもの文化春のセミナー	こどもの文化研究所	菊池講師

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成29年9月6日	アクティブラーニング研修	敬心学園	専任講師4名
平成30年3月4日	日本保育者養成教育学会 第2回 研究大会	日本保育者養成教育学会	安部講師
平成29年9月2日～3日	平成29年度全国保育士養成セミナー 第16分科会「多様な学生への支援の体制と方法」	全国保育士養成協議会	水引講師

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校長は、自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。
社会・現場に精通した関係者委員の参加により、社会・企業等の要望に応えた質の高い教育の実現を目指し、入学生・保護者・企業等の社会に貢献する学校運営を実現する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人物像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事、意志決定システム
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連
(6) 教育環境	施設・設備等、学外実習・インターンシップ等
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令、設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

当校の高い就職率・就職後の離職率等にあらわれる学生の就職に対する前向きさと、その学生を支える組織に対し評価を得ている。また、様々なボランティア活動への積極的な取り組み等、社会との関係・関わりを重視した考え方にご理解を得ている。しかし、定員充足率100%には、若干名不足しており、在学生の納付金により経営が維持されていること、また18歳人口の動向等から、より学生募集へ注力し、学校運営の安定化・奨学金制度等活用による募集活動の活性化等の意見が寄せられており、次の対策を取ることにした。

- ①卒業生・業界団体(就職企業)等・学校との三角形をより強固にするため、従来ある「施設長推薦」枠の拡充。一般企業が設置する保育園等では、無資格で働いている者に対し、資格取得を促し労働条件の改善に努めている現状がある。勤務先である企業(株式会社等)から、無資格で働く者を紹介していただき、その者たちに対し別枠で奨学金を設けこととした。
 - ②学校評価の中心的テーマでもある「授業評価(アンケート)」について、来年度より実施することとした。
- なお、二回目以降の会議にて、当校「自己評価書」について、さらに精査することとした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年8月31日現在

名前	所属	任期	種別
片岡 輝	東京家政大学 名誉教授 社会福祉法人 緑伸会 理事長 財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所 理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
新木 真理子	社会福祉法人 七施 育正保育園 園長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	卒業生
須江 宏行	公益財団法人 生長の家社会事業団 生長の家神の国寮 自立支援コーディネーター	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	卒業生
三沢 敦子	株式会社キッズベースキャンプ 資格事業チーム 統括シニアマネージャー	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
柏倉 一雅	株式会社キッズベースキャンプ 新宿区中井児童館館長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
岡田ひとみ	社会福祉法人どろんこ会 社会福祉法人どろんこ会理事兼園長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ(平成29年8月31日)

URL:<http://www.jie.ac.jp/features/disclosure.html>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校を取り巻く様々な関係者(学生・企業等)に対し、正しい選択をする機会を提供し、当校に対する理解・共感を深め、関係者との力強い関係を築くことにより、学生に対し様々な社会経験を積ませることにより、学生の資質向上を目指す。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育・人材育成の目標、経営方針・特色、校長名、所在地・連絡先 諸活動に関する計画
(2) 各学科等の教育	収容定員数、在学学生数、カリキュラム、授業方法および内容・計画
(3) 教職員	教職員数、専任講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、実習・実技等、就職支援等
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8) 学校の財務	学校(学園)の財務
(9) 学校評価	自己評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ <http://www.jje.ac.jp/features/disclosure.html>

授業科目等の概要

(児童教育専門課程 総合子ども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			英語コミュニケーション	・英語の歌、絵本、ゲームをしながらレッスンプランをアレンジできるように ・ClassroomEnglishを身につける ・簡単な英作文を書けるように	1後	30	2			○	○			○	
○			体育Ⅰ	生きる力となる体力を培うスポーツ・体育は、心身の健康をもたらす、人と人がコミュニケーションして、喜び楽しむ重要な役割を担っている。それらを取りまく社会、環境を考え、運動生理・発達心理の立場から、よりよくスポーツ・体育を指導していきけるよう学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			体育Ⅱ	幼児期は、まず「からだ」が出来ていく基となる時期で、体育あそび及び適切なスポーツを通して、筋力・体力・調整力を付けると共に、明るく健康で、豊かな情操を培えるように保育士の温かく育む姿勢と指導力が求められる。その指導者としての資質を養う。	1後	30	1			○	○				○
○			日本国憲法	・最高法規としての憲法のなりたちを知る。・近代立憲主義の枠組みを理解する。・日本の法の構造を把握する。・論理的思考力を養う。・論理的記述力を養う	1前	30	2	○				○			○
○			児童文学	・子どもが楽しみながら、絵本や物語に興味をもてる選び方や関わり方を考える。・多くの作品を読み合いながら魅力を学ぶ。・「生きる力」について考える。・絵本や物語の読み聞かせについて学ぶ。・絵本や物語を手がかりに保育活動をイメージする。	1後	30	2	○				○			○
○			情報機器の操作	・幼児教育者が持つべき情報の基礎知識を得る。・情報機器を使う教育の利点と問題点を知る。・情報機器の活用方法を学ぶ。・教育現場でも作成可能なコンピュータによる「動くオリジナルストーリー映像」を作りこれを指導できる能力や創作力を養う。	1前	30	2		○			○			○
○			保育原理	・保育の意義、保育の歴史など保育にかかわる基本的な事項を学ぶ。・保育環境、保育方法などの保育の展開について学ぶ。・保育所保育指針における保育の基本について理解する。・保育の現状と今後の課題について理解する。	1前	30	2	○				○			○
○			教育原理	1. 教育に関する基礎的理解を通して、受講生各自の教育観を育む。2. 教育の本質を知ること、教育と人間の発達との関係を知る。3. 教育の実態を歴史的に把握し、そこに現れた教育思想を学ぶ。4. 学校教育の制度と教育実践の基礎理論について理解する。5. 生涯学習社会における教育のあり方を考える。6. 全体を通して、併修学習への対応を考慮して指導を進める。	1前	30	2	○				○			○
○			児童家庭福祉	「児童福祉」とは子どもが幸せになるために必要な取り組み全てを指す言葉である。本講義では、その取り組みを支える法律や具体的な児童福祉制度を理解することを目的とする。また現在の子どもの取り巻く環境についても学んでいく。	1前	30	2	○				○			○
○			社会福祉	・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ・社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。 ・社会福祉の制度や実施体系等について理解する。	1前	30	2	○				○			○

○		教育史	日本における子どもの生活と子どもに対する教育の歴史を学習することにより、教育実践に対する歴史的視点を獲得する。	2前	30	2	○			○		○		
○		地域援助論	・地域に暮らす人々の生活に目を向ける。 ・社会福祉法に掲げられた地域福祉推進の理念について理解する。 ・地域に向けた援助実践の支えとなる諸理論について学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
○		保育臨床心理学	1. 自分の「こころ」に触れる体験を通して、自分自身を知り、自分と向き合う。2. 他者の「こころ」に触れる体験を通して、自己理解、他者理解への考察を深める。3. 子ども達の心の世界について学び、知る。	3前	30	2	○			○		○		
○		保育カウンセリング概論	カウンセリング技法を学び、習得することによって、以下のことが実践できる力を養う。	3後	30	1		○		○		○		
○		子どもの食と栄養実習	1. 健康生活の基本である食生活について学ぶ。 2. 栄養バランスのとれた献立を理解し、作成できるよう学ぶ。 3. 小児の成長と食生活の関係を理解する。	2前	30	1		○		○			○	
○		教育課程総論	1. 保育課程・教育課程の意義を認識する。 2. 日本の保育／幼児教育の歴史の中で、保育内容の変遷を学ぶ。3. 『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』の特徴を理解する。	3前	30	2	○			○		○		
○		視聴覚教育	1. 現代日本の幼児の生活と視聴覚メディアとの関わりについて、その実態を認識する。 2. 多様な視聴覚メディアについて基本的な理解を得る。	3前	30	2	○			○			○	
○		保育表現技術・幼児体育Ⅱ	幼児体育Ⅰで学んだ内容を基本として、更に実践的スキルを身につけます。運動遊具（マット、巧技台、ボールetc）の使用方法を学びます。固定遊具を使う体育あそびの数々を学びます。	2後	30	1		○		○		○		
○		保育表現技術・ピアノⅡ	・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル60番程度）。 ・子どものうたを生き生きと弾きながらうたえるようになること。 ・自ら喜びを持って音楽表現を行えるようになること。	1後	30	1		○		○			○	
○		保育表現技術・造形Ⅱ	幼児造形の枠に捕らわれずに造形表現の実習を行い、表現について理解を深め柔軟な発想を養う。	1後	30	1		○		○			○	
○		保育実習Ⅱ/Ⅲ	実習は本校において履修し教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士および、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	3後	90	2				○		○	○	○
○		保育実習指導Ⅱ/Ⅲ	保育実習Ⅱの課題に向けて、具体的方法を深める。部分・責任実習は指導案計画案に基づき、実際に実施する。貴重な実習経験を共有し、保育者・保育現場へのさらなる理解を深める。	3後	30	1		○		○		○		
○		実習基礎技能Ⅰ	実習を行う上で求められる基礎的な力、「読む」「書く」「見る」「聞く」「話す」「考える」「対人関係（コミュニケーション能力）」の力が自分に備わっているかを自己点検し、足りない力をきちんと習得。自信をもって実習に臨めるよう準備する。	1前	30	1		○		○		○		
○		実習基礎技能Ⅱ	・実習の目的を理解し実習生として必要な姿勢を身に付ける。 ・特に施設実習の概要について理解する。 ・施設で生活している子どもや利用者の抱えている課題や背景について理解する。	1後	30	1		○		○		○		
○		保育実習指導Ⅰc	・保育所実習に向け、具体的な実習課題を明確化する。 ・子どもの発達・子どもとの関わりを理解し実習生としての実践を具体的にイメージする。 ・指導計画の立案・グループでの演習。 ・保育教材の製作及び発表。	3前	30	1		○		○		○		
○		教育実習	実習は、本校において履修した教科全体の知識・技能を現場において総合的に実践し、応用力を養うことを目的とする。また、体験を通して幼稚園教諭としての自覚を高め、各自の今後の学習課題を探索する契機とする。	4後	180	4				○		○	○	○

		○	人形劇	1. うちわ型平面人形劇ペープサートを作る、演じる、観せる実技で表現力を育てる。2. 相手にはっきり届く声が出せるように、語りかけができる声をつくる。3. ペープサートを保育に生かし、楽しみづくりの名人になってほしい。	2 前	30	1		○	○								
		○	手話 I	① 手話の学習を通し、聴覚障害に関する理解を深める。② 手話の基礎知識を学ぶ。③ 聴覚障害の基礎知識を学ぶ。	4 前	30	1		○	○								
		○	手話 II	1. 身振りや手話を通して伝える、伝わる喜びの修得。2. 手話を覚えて会話の楽しみを修得。3. 実際に覚えた手話で聴覚障害者との交流学習を体験。	4 後	30	1		○	○								
		○	レクリエーション論	この講座のプログラムは、日本レクリエーション協会「レクリエーション・インストラクター」の受験の一部単位と認められます。指導者にふさわしい性格、教養を身につけた人は、実際に合宿して、実技の体験をします。	3 前	30	2	○		○								
		○	レクリエーション実技	レクリエーション実技指導の方法、実技の取り上げ方、対象別に実技を通してゲームのルール・どう楽しませるかを修得して行きます。	4 後	30	1		○	○								
		○	レクリエーション種目の実技	この講座のプログラムは、日本レクリエーション協会「レクリエーション・インストラクター」の受験の一部単位と認められます。指導者にふさわしい性格、教養を身につけた人は、実際に合宿して、実技の体験をします。	4 後	30	1		○	○								
○			ゼミナール I	数種類のゼミから自身の興味ある分野や、極めたい分野を受講する。その中で学生自身が主体的に発表する場などを設け、専門性を身に付ける。	3 後	30	2		○	○								
○			ゼミナール II	ゼミナール I に引き続き研究をおこない、自身の専門性を高める。	4 前	30	2		○	○								
○			卒業研究	ゼミナール修了後、研究発表をおこなう。	4 後	0	6		○	○								
		○	リズム・ダンスあそび	・保育の中で、即、実践できるよう「自分自身を知り、元気！勇気！笑顔」とは、どのようなことかを感じ学ぶ。 ・リズムとは何か 体を動かすことの楽しさの中から学ぶ。	3 後	30	1		○	○								
		○	教材技法	乳幼児教育の専門家としての自分から工夫し、創造し、探究し、大きな表現力、創造力を培う。一人一人プランを組み立て、作品を完成させることを目標とする。	3 前	30	1		○	○								
		○	絵画造形技法	発達に合った活動を通して子どもが表現する喜びを味わうことができるような指導法を知る。 子どもの興味や関心から生まれる活動について知る。	3 前	30	1		○	○								
		○	運動あそび	・運動あそびのねらいと意義を学びます。 ・各年齢発達に合わせた指導方法を学びます。 ・実際に身体を動かして、様々な運動あそびを身につけます。	3 前	30	1		○	○								
		○	幼児の野外活動	・野外活動、あそび、自然の中で、まずは自分自身が楽しむ。 ・野外にて実践的な知識、技能を身につける。 ・野外活動の必要性を理解し、自己の発想力、創造力、企画力を養う。	4 前	30	1		○	○								
		○	体育心理学	・幼児教育で活用できる体育心理学の知識を学ぶ。 ・動機づけについて学ぶ。 ・運動学習、練習についての知識を深める。 ・リラクゼーションの重要性について。 ・集中力を高めるには。	4 前	30	2	○		○								

		<input type="radio"/>	絵本創作	保育関係の仕事を目指す人にとって、絵本は基本的なアイテムのひとつと言えます。自作の絵本を製本までできたら楽しいのではないのでしょうか。また、保育にもきっと役立つはず。この授業では、そのような手作り絵本を制作します。	4後	30	1		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
		<input type="radio"/>	紙芝居	・いろいろな紙芝居を観て、楽しみ学ぶ。 ・紙芝居の演じ方を学び、実演を体験する。 ・紙芝居の歴史と、世界へのひろがりを学ぶ。	4前	30	1		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
		<input type="radio"/>	劇遊び	この授業では、「劇あそび」（ドラマ）について、その取り組み方や保育者の関わり方を、創作や実技を通して体験的に学習していくとともに、「よそ行きの劇」（シアター）との取り組み方のちがいについても理解を深めていきます。	4前	30	1		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
<input type="radio"/>			クラスルーム I a～IVb	クラス活動を通じて、保育者に必要とされるコミュニケーション力、自主性、協調性、責任感、協働の素質を養い、高める。	全	240	8		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
<input type="radio"/>			併修学習 I a～IVb	幼稚園教諭免許状取得に向けて、併修学習を促進する	全	240	8		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
合計				120 科目	3990単位時間(170単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
履修は学期ごとにおこなう。 卒業要件は82単位以上の単位を修得し、かつ卒業要件科目の単位認定により卒業できる。	1 学年の学期区分	2 期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。